

# 米をめぐる関係資料

令和 2 年 1 0 月

**農林水産省**

# 目次

【① 我が国における米の状況】	3	【② 需要に応じた生産の推進に向けた施策等】	29
○ 我が国におけるコメ	4	○ 食料・農業・農村基本計画本文(米・水田関係抜粋)	30
○ 米の全体需給の動向(昭和35年～)	5	○ 食料・農業・農村基本計画:令和12年度における 食料消費の見通し及び生産努力目標(米部分抜粋)	31
○ 米の需要量及び販売価格の動向	6	○ 水田活用の直接支払交付金	32
○ 産地別民間在庫の状況(令和2年8月)	7	○ 水田農業の高収益化の推進	33
○ 米の用途別・年産別面積の推移	8	○ 小麦、大豆等の需要の拡大状況	34
○ 米の流通経路別流通量の状況	9	○ 収入保険制度の実施	35
○ 米の流通の状況(平成16～30年産米)	10	○ 米・畑作物の収入減少影響緩和交付金(ナラシ対策)	36
○ 家庭における1世帯当たりの米、パン、めん類の購入量の推移	11	○ 米穀周年供給・需要拡大支援事業	37
○ 家庭における1世帯当たりの支出金額の推移	12	○ 主食用米の需給安定の考え方について	38
○ 米の消費における家庭内及び中食・外食の占める割合	13	○ 米穀周年供給・需要拡大支援事業におけるこれまでの主な取組事例	39
○ 米の消費動向	14	○ 農業再生協議会について	40
○ 主食用米の販売動向(米穀卸売業界調査)	17	○ 需要に応じた生産の推進に係る全国会議等(農林水産省主催)	41
○ 小売価格の推移(POSデータ)	18	○ 全国的な推進組織について	42
○ 小売段階での販売価格の推移(POSデータ)	19	○ 需要に応じた販売について(低価格帯の需要への生産・販売の拡大)	43
○ 茶わん1杯のお米の値段	20	○ 中食・外食向け販売量の状況について(中食・外食向け販売実態調査結果)	44
○ 販売目的で作付けした水稻の作付面積規模別農家数	21	○ 中食・外食向けの需要に応じた生産・販売事例	46
○ 米の作付規模別60kg当たり生産費(平成30年産)	22	○ 産地と中食・外食事業者等の米マッチングフェアについて	47
○ 水田の利用状況の推移	23	○ 米の消費拡大	48
○ 水田の利用状況(令和元年度)	24	○ 中食・外食向け米の多収品種	50
○ 政府備蓄米の運営について	25	○ 生産コスト低減に向けた具体的な取組	51
○ 東日本大震災を踏まえての災害時に対応した備蓄	26	○ スマート農業実証プロジェクト	52
福島県における県産米の安全・安心確保への取組	27	○ スマート農業実証プロジェクト 実証圃場一覧	53
令和2年産米の作付制限等の対象地域(令和元年産との比較)	28	○ 農産物規格・検査の見直しについて	54
		○ 規制改革実施計画のポイント(令和2年7月17日閣議決定)(抜粋)	55
		○ 規制改革実施計画(令和2年7月17日閣議決定)(抜粋)	56
		○ 農産物検査規格・米穀の取引に関する検討会について	57
		○ 現行の農産物規格・検査の概要	58
		○ 米(玄米・精米)の物流合理化について	59

# 目次

【③ 新規需要米の取組状況】	60	【④ コメの輸出・輸入】	77
○ 飼料用米の取組状況	61	○ 食料・農業・農村基本計画におけるコメ・コメ加工品の輸出に係る位置づけ	78
○ 多収品種について	62	○ コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況	79
○ 令和元年産飼料用米の出荷方式、品種別面積	63	○ 新型コロナウイルスの感染拡大がコメ輸出に与える影響	80
○ 飼料用米の供給状況	64	○ 商業用のコメの輸出数量及び輸出金額の推移	81
○ 配合飼料メーカーの立地状況と飼料用米の集荷・流通体制	65	○ 一般社団法人 全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会の概要	82
○ 飼料用米の流通経費について	66	○ コメ・コメ関連食品の輸出拡大に向けた取組	83
○ 飼料用米の需要情報について	67	○ コメ海外市場拡大戦略プロジェクト構想	84
○ 飼料用米の利用拡大のための機械・施設整備等に対する支援	68	○ コメ海外市場拡大戦略プロジェクトの参加状況(令和2年9月30日時点)	85
○ 飼料用米を活用した畜産物の高付加価値化に向けた取組	69	○ 中国向けコメ輸出の状況	86
○ 飼料用米を活用した畜産物のブランド化事例	70	○ 経営規模・生産コスト等の内外比較	87
○ 「飼料用米多収日本一コンテスト」の開催	72	○ 日米の水稲栽培法の主な違い	88
○ 米粉用米の状況	73	○ コメの内外価格差	89
○ 米粉によるグルテンフリー食品市場の取り込みに向けて	74	○ MA米の運用に関する政府の方針・見解	90
○ 日本酒原料米の需要動向について	75	○ MA米の販売状況	91
○ 酒造好適米の需要に応じた生産について	76	○ MA米の運用に伴う財政負担	92
		○ TPP11におけるコメの豪州枠の運用	93
		○ 総合的なTPP等関連政策大綱[米関係抜粋]	94
		○ 総合的なTPP等関連政策大綱に基づく備蓄米の運営の見直し	95

## ① 我が国におけるコメの状況

---

# 我が国におけるコメ

- コメの国内生産(稲作と水田)は、我が国の食料安全保障、食生活、農業・農村、国土・環境などに不可欠のもの。日本人の歴史・文化とも密接な関係。

- 我が国の食料自給率(令和元年度)

	カロリーベース	生産額ベース
平成30年度	37%	66%
	↓	↓
令和元年度	38%	66%

(参考)品目別供給熱量自給率

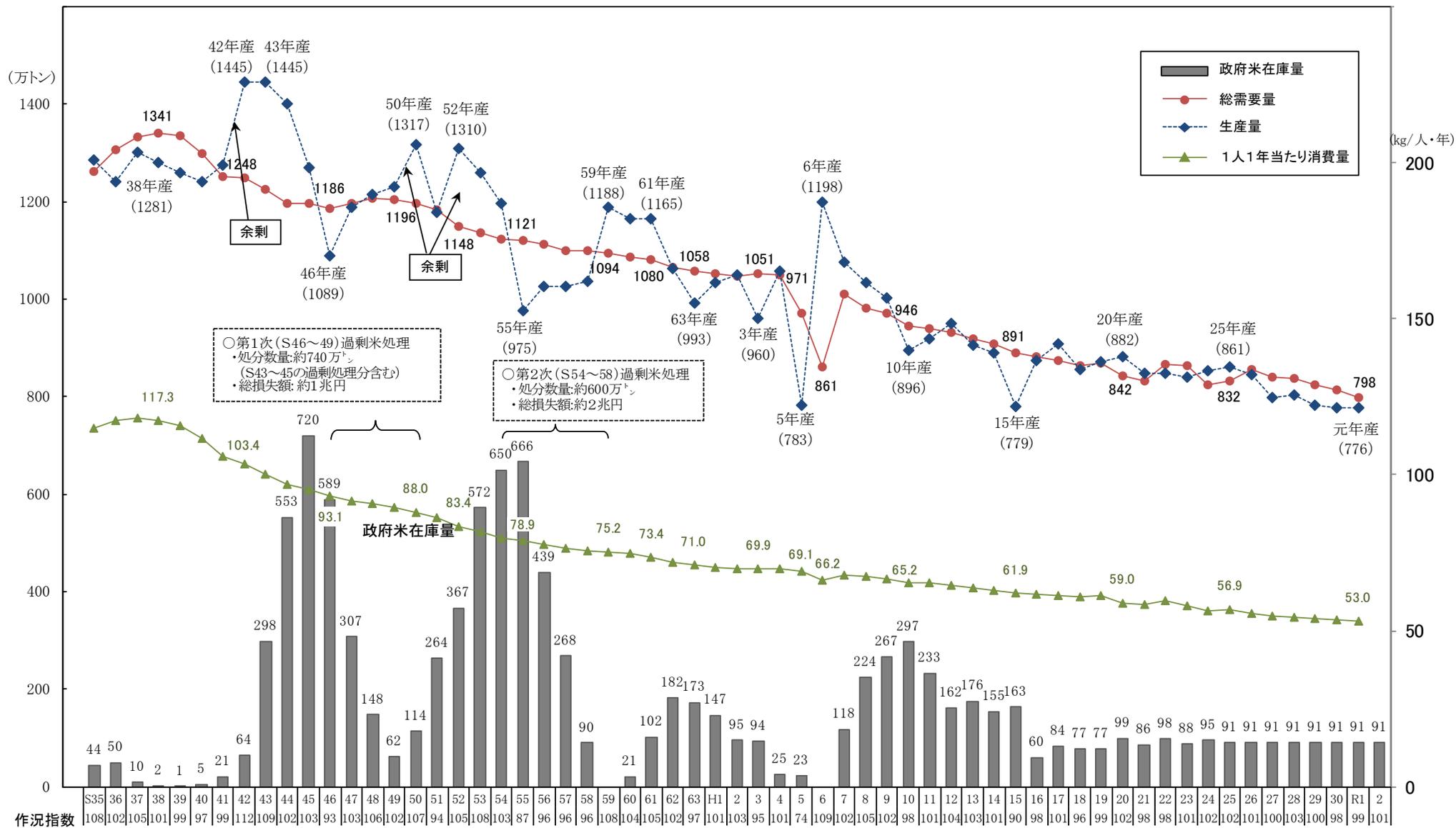
コメ	小麦	大豆	野菜	果実
98%	17%	22%	76%	32%
畜産物	砂糖類	油脂類	魚介類	その他
15%	35%	3%	54%	23%

- ・農産物市場の開放と食料の輸入依存が進む中で、コメは100%近い自給率を維持。
- ・コメは、先進国の中で最低レベルである我が国の食料自給率を支える、食料安全保障の要。

- 我が国におけるコメの重要性

- ・ 国民の主食であり、食文化の基礎  
〔国産米は品質も高く、日本人の嗜好に最適。ご飯、おむすび、寿司などの他、もち、和菓子(例. 団子、白玉)、米菓(例. せんべい、あられ)、日本酒などの原材料。祝事や年中行事には赤飯、鏡餅、柏餅など。〕
- ・ 農業生産・農村経済の中核  
〔農業生産額の約2割がコメ(H30)。全耕作地の半分以上が田(R1)。全農業経営体の7割が稲作(H30)。〕
- ・ 稲作や水田の有する多面的機能  
〔国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料などの供給の機能以外の多面にわたる機能のこと(食料・農業・農村基本法第3条)。〕
- ・ 日本人の歴史や文化と密接な関係  
〔稲作の始まりにより社会(ムラ)・国家(クニ)が成立。江戸時代の各藩はコメの生産量で表され(石高制)、税もコメ(年貢)。豊作への感謝と祈りが、祭りの起源。稲作での共同作業は、日本の組織文化の基礎。〕

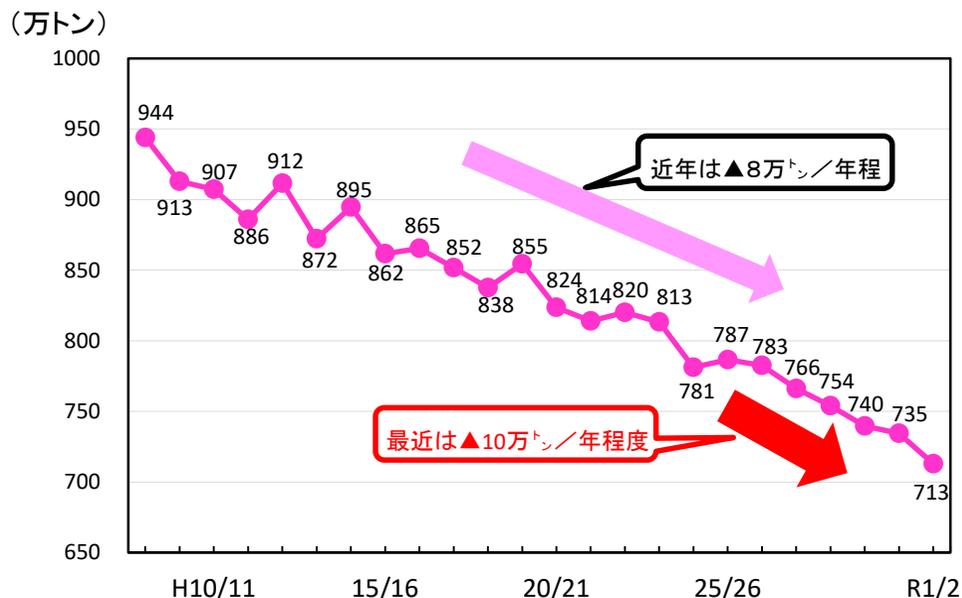
# 米の全体需給の動向(昭和35年～)



# 米の需要量及び販売価格の動向

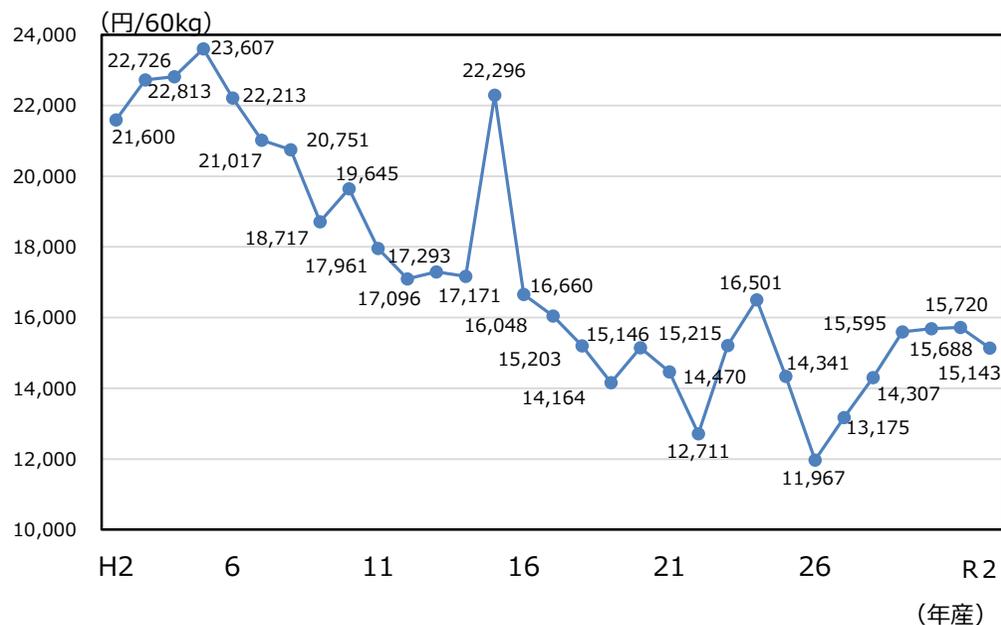
- 主食用米の全国ベースの需要量は一貫して減少傾向にある。最近は人口減少等を背景に年10万トン程度に減少幅が拡大。
- 米の販売価格は長期的に低下傾向で推移しているが、近年は堅調に推移。

【主食用米の需要量の推移】



資料：農林水産省「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」

【米の販売価格の推移】



資料：(財) 全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「米穀の取引に関する報告」  
 注1：平成2～17年産までは(財) 全国米穀取引・価格形成センター入札結果を元に作成。  
 注2：平成18年産以降は出回り～翌年10月（令和元年産は令和2年8月まで、令和2年産は令和2年9月まで）の相対取引価格の平均値。  
 注3：センター価格は、銘柄ごとの落札数量で加重平均した価格であり、相対取引価格は、銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

# 産地別民間在庫の状況(令和2年8月)

(単位:千玄米トン)

	30/元年産			元/2年産			
	元年 6月	元年 7月	元年 8月 ①	2年 6月	2年 7月	2年 8月 ②	対前年 同月差 ②-①
北海道	146.1	108.9	75.3	147.4	113.9	84.6	+ 9.2
青森	76.4	59.5	43.1	93.7	76.0	61.1	+ 18.0
岩手	59.8	43.8	29.3	86.5	67.9	49.6	+ 20.3
宮城	87.1	69.2	54.3	112.3	89.2	68.9	+ 14.5
秋田	95.8	66.1	41.2	115.9	83.6	57.2	+ 15.9
山形	69.1	53.7	40.4	102.6	85.4	69.0	+ 28.6
福島	100.1	79.0	56.0	124.3	103.6	87.1	+ 31.1
茨城	43.1	29.8	33.6	50.3	36.0	44.9	+ 11.3
栃木	82.2	65.5	47.0	79.0	65.3	52.5	+ 5.6
群馬	13.9	10.9	7.9	9.6	8.1	6.7	▲ 1.2
埼玉	12.8	10.3	7.8	13.4	10.4	7.7	▲ 0.1
千葉	29.9	19.3	45.9	25.8	15.4	49.2	+ 3.3
東京	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	+ 0.0
神奈川	0.5	0.4	0.3	0.7	0.6	0.5	+ 0.2
山梨	2.3	1.9	1.4	2.7	2.0	1.4	+ 0.0
長野	24.5	22.4	16.6	39.6	29.6	20.8	+ 4.2
静岡	3.5	2.0	3.8	5.5	3.5	5.3	+ 1.5
新潟	84.9	58.9	35.1	121.5	84.7	53.7	+ 18.6
富山	31.6	21.7	14.6	34.3	25.8	19.9	+ 5.3
石川	23.2	17.1	13.5	22.9	16.6	11.6	▲ 1.9
福井	26.8	19.0	14.8	29.6	22.2	18.1	+ 3.3
岐阜	10.6	8.7	8.2	16.6	14.3	12.4	+ 4.2
愛知	14.2	10.8	8.6	15.7	12.3	10.8	+ 2.1
三重	15.4	10.0	15.5	14.7	7.6	14.4	▲ 1.0

	30/元年産			元/2年産			
	元年 6月	元年 7月	元年 8月 ①	2年 6月	2年 7月	2年 8月 ②	対前年 同月差 ②-①
滋賀	26.2	19.1	14.8	25.6	19.1	16.3	+ 1.5
京都	4.6	3.6	2.4	5.5	4.5	3.4	+ 1.0
大阪	0.5	0.4	0.3	0.7	0.5	0.4	+ 0.1
兵庫	20.0	16.5	12.8	22.0	18.9	15.3	+ 2.4
奈良	3.3	2.4	1.7	4.4	3.4	2.5	+ 0.8
和歌山	0.6	0.5	0.3	0.8	0.6	0.6	+ 0.2
鳥取	11.4	8.3	5.7	13.6	9.3	6.1	+ 0.4
島根	12.8	8.9	6.7	10.1	6.7	4.5	▲ 2.2
岡山	24.4	19.6	14.0	28.0	23.1	18.3	+ 4.3
広島	14.8	11.4	8.2	14.5	11.2	8.4	+ 0.2
山口	17.0	13.1	10.2	14.2	11.0	8.6	▲ 1.6
徳島	3.6	2.5	7.2	4.0	3.0	10.8	+ 3.6
香川	9.4	7.5	6.1	8.5	6.6	5.7	▲ 0.4
愛媛	4.2	3.1	3.6	3.5	2.7	3.7	+ 0.1
高知	3.0	2.2	9.6	2.9	2.0	7.4	▲ 2.2
福岡	26.2	18.9	13.5	19.7	13.8	9.6	▲ 3.9
佐賀	16.7	12.2	9.8	13.0	10.6	9.7	▲ 0.1
長崎	4.5	3.3	2.6	3.2	2.4	2.3	▲ 0.3
熊本	27.5	21.5	18.1	19.8	14.1	11.4	▲ 6.7
大分	8.9	7.2	5.9	5.6	4.1	3.3	▲ 2.5
宮崎	3.6	6.0	7.4	3.2	3.6	6.7	▲ 0.8
鹿児島	8.8	7.9	10.2	8.3	6.9	8.5	▲ 1.7
沖縄	0.3	0.6	0.5	0.3	0.6	0.4	▲ 0.2
全国	1,310.0	990.0	790.0	1,540.0	1,190.0	1,000.0	+ 210.0

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注:1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

# 米の用途別・年産別面積の推移

(単位: 万ha)

用途 年産	主食用米		備蓄米	加工用米	新規 需要米	飼料用	WCS ( 稲発酵粗 飼料用)	米粉用	新市場 開拓用 (輸出用米等)	酒造用	その他
	生産量 (万トン)										
H20	159.6	866	H22年産 までは、 主食用米 として生産	2.7	1.2	0.1	0.9	0.0	0.0	-	0.2
H21	159.2	831		2.6	1.8	0.4	1.0	0.2	0.0	-	0.1
H22	158.0	824		3.9	3.7	1.5	1.6	0.5	0.0	-	0.1
H23	152.6	813	1.2	2.8	6.6	3.4	2.3	0.7	0.0	-	0.1
H24	152.4	821	1.5	3.3	6.8	3.5	2.6	0.6	0.0	-	0.1
H25	152.2	818	3.3	3.8	5.4	2.2	2.7	0.4	0.1	-	0.1
H26	147.4	788	4.5	4.9	7.1	3.4	3.1	0.3	0.1	0.1	0.1
H27	140.6	744	4.5	4.7	12.5	8.0	3.8	0.4	0.2	0.1	0.0
H28	138.1	750	4.0	5.1	13.9	9.1	4.1	0.3	0.1	0.1	0.0
H29	137.0	731	3.5	5.2	14.3	9.2	4.3	0.5	0.1	0.1	0.0
H30	138.6	733	2.2	5.1	13.1	8.0	4.3	0.5	0.4	-	0.0
R元	137.9	726	3.3	4.7	12.4	7.3	4.2	0.5	0.4	-	0.0
R2	136.6	735 (9/15現在)	3.7	4.5	12.6	7.1	4.3	0.6	0.6	-	0.0

注1: 主食用米:統計部公表値。備蓄米:地域農業再生協議会が把握した面積。加工用米及び新規需要米:取組計画認定面積。

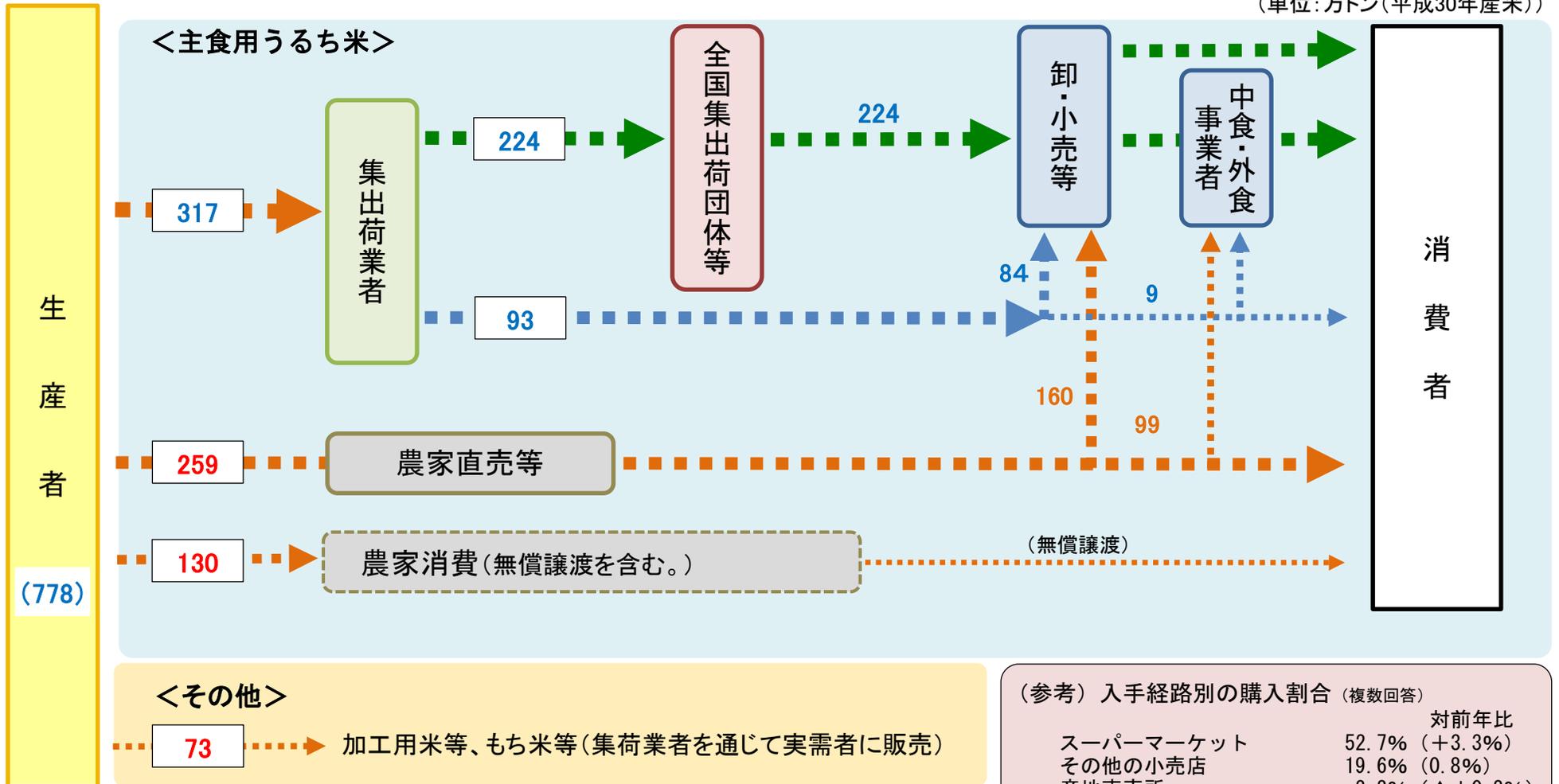
注2: 新規需要米の「酒造用」については、「需要に応じた生産・販売の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米であり、平成30年産以降は取りまとめていない。

注3: R2年産の作付面積は、9月18日現在の速報値である。

注4: ラウンドの関係で、新規需要米の合計と内訳は合わない場合がある。

# 米の流通経路別流通量の状況

(単位: 万トン(平成30年産米))



(参考) 入手経路別の購入割合 (複数回答)

入手経路	割合	対前年比
スーパーマーケット	52.7%	(+3.3%)
その他の小売店	19.6%	(0.8%)
産地直売所	2.2%	(▲+0.2%)
インターネット	9.8%	(▲0.2%)
生産者から直接購入	6.0%	(▲1.1%)
無償譲渡	14.8%	(▲1.4%)

※ 米穀安定供給確保支援機構調べを元に農林水産省で算出 (平成30年4月から平成31年3月の年平均)

資料: 農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀在庫等調査」、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

注1: 集出荷業者には、全集連系を含む(JA等への出荷量317万トンのうち19万トンが全集連系)。

注2: 「卸・小売等」には、中食・外食事業者及び加工事業者等を含む。

注3: ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

# 米の流通の状況(平成16～30年産米)

【生産段階】

(単位:万トン)

年産	生産量		出荷・販売		農家消費等		その他		加工用米等		もち米		減耗	
	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合
H 16	872	100.0%	636	72.9%	180	20.6%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%
17	906	100.0%	653	72.1%	183	20.2%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%
18	855	100.0%	631	73.8%	165	19.3%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%
19	871	100.0%	632	72.6%	174	20.0%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%
20	882	100.0%	636	72.1%	172	19.5%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%
21	847	100.0%	624	73.7%	161	19.0%	62	7.3%	16	1.9%	29	3.4%	17	2.0%
22	848	100.0%	594	70.0%	174	20.5%	71	8.3%	22	2.6%	32	3.8%	17	2.0%
23	840	100.0%	604	71.9%	170	20.2%	66	7.9%	16	2.0%	33	3.9%	17	2.0%
24	852	100.0%	616	72.3%	167	19.5%	69	8.1%	19	2.2%	33	3.9%	17	2.0%
25	860	100.0%	626	72.8%	165	19.2%	69	8.0%	21	2.4%	31	3.6%	17	2.0%
26	844	100.0%	616	73.1%	154	18.3%	73	8.7%	27	3.2%	30	3.5%	17	2.0%
27	799	100.0%	579	72.5%	146	18.3%	74	9.2%	25	3.1%	33	4.1%	16	2.0%
28	804	100.0%	582	72.3%	146	18.1%	77	9.6%	26	3.2%	35	4.4%	16	2.0%
29	782	100.0%	569	72.8%	139	17.7%	74	9.5%	26	3.3%	33	4.2%	16	2.0%
30	778	100.0%	576	74.0%	130	16.7%	73	9.3%	28	3.6%	29	3.7%	16	2.0%

【出荷・販売段階】

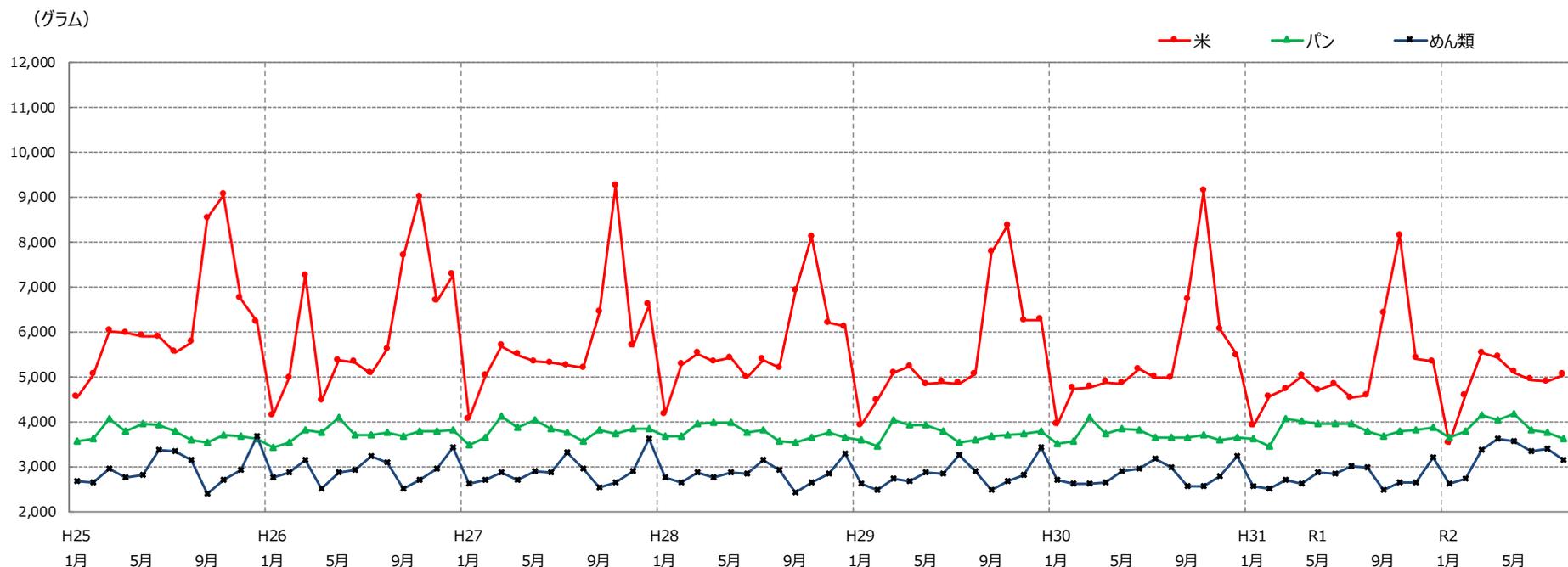
(単位:万トン)

年産	出荷・販売		農協			全集連系業者			生産者直接販売等							
	数量	割合	数量	割合	数量	数量	割合	数量	割合	数量	割合					
H 16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	12	1.4%	226	25.9%
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	226	24.9%
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	227	26.5%
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	232	26.6%
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	9.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	224	25.4%
21	624	73.7%	372	43.9%	294	34.7%	78	9.2%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	230	27.2%
22	594	70.0%	369	43.5%	285	33.6%	84	9.9%	21	2.5%	6	0.7%	15	1.8%	203	24.0%
23	604	71.9%	351	41.8%	266	31.7%	85	10.1%	21	2.5%	6	0.8%	15	1.8%	232	27.6%
24	616	72.3%	352	41.3%	273	32.1%	79	9.3%	21	2.4%	6	0.7%	15	1.8%	243	28.6%
25	626	72.8%	373	43.4%	293	34.0%	81	9.4%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	231	26.8%
26	616	73.1%	369	43.7%	285	33.8%	84	10.0%	24	2.8%	9	1.0%	15	1.8%	223	26.5%
27	579	72.5%	344	43.1%	258	32.3%	86	10.7%	22	2.7%	7	0.9%	14	1.8%	213	26.7%
28	582	72.3%	338	42.1%	252	31.3%	86	10.8%	22	2.7%	6	0.8%	16	1.9%	221	27.5%
29	569	72.8%	315	40.3%	234	29.9%	81	10.4%	20	2.6%	5	0.7%	15	1.9%	234	29.9%
30	576	74.0%	298	38.3%	219	28.1%	80	10.2%	19	2.4%	5	0.6%	13	1.7%	259	33.3%

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」（22年産以降は「生産者の米穀在庫等調査」）、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

- 注：1）平成21年産までの推計に用いた「生産者の米穀現在高等調査」と22年産以降の推計に用いている「生産者の米穀在庫高等調査」では調査対象農家の定義が異なる（前者は10a以上稲を作付（子実用）している農家、後者は販売目的の水稲の作付面積が10a以上の販売農家が対象）ことから、22年産から推計手法を変更している。  
 2）生産段階には、このほか、①集荷円滑化対策による区分出荷米（17年産8万トン、20年産米10万トン）、②品質低下に伴う歩留り減（22年産米10万トン）がある。  
 3）ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

# 家庭における1世帯当たりの米、パン、めん類の購入量の推移



(グラム)

		年間						月間								
		平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
米	購入数量	75,170	73,050	69,510	68,740	67,270	65,750	62,200	3,520	4,600	5,540	5,440	5,110	4,940	4,900	5,060
	前年比	95.4%	97.2%	95.2%	98.9%	97.9%	97.7%	94.6%	90.0%	100.9%	116.9%	108.2%	108.5%	102.1%	107.9%	110.2%
パン	購入数量	44,927	44,926	45,676	45,099	44,840	44,526	46,011	3,652	3,789	4,157	4,037	4,177	3,812	3,760	3,615
	前年比	100.3%	100.0%	101.7%	98.7%	99.4%	99.3%	103.3%	100.7%	109.7%	102.2%	100.2%	106.6%	96.0%	95.2%	95.3%
めん類	購入数量	35,560	35,176	34,753	34,192	33,934	33,867	33,169	2,629	2,751	3,382	3,637	3,578	3,351	3,416	3,167
	前年比	99.3%	98.9%	98.8%	98.4%	99.2%	99.8%	97.9%	102.0%	109.5%	124.3%	138.0%	124.9%	117.7%	113.7%	106.2%

資料：総務省「家計調査」家計収支編

(注1) 二人以上の世帯の数値である。(注2) 平成25年から令和元年については年間の購入数量・対前年比、令和2年は月間の購入数量・対前年同月比である。(注3) 米は精米ベースである。

# 家庭における1世帯当たりの支出金額の推移

(円、%)

	食料		米		パン		めん類		スパゲッティ(パスタ)		カップめん		菓子類		調理食品		外食		ハンバーガー	
		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比		前年 (同月)比
平成25年	895,860	+1.9	28,093	▲2.2	27,974	▲1.1	17,170	▲2.2	1,193	▲4.9	3,313	▲1.3	78,948	+1.5	105,033	+0.4	165,246	+4.8	4,170	▲3.4
平成26年	913,261	+1.9	25,108	▲10.6	29,210	+4.4	17,295	+0.7	1,206	+1.1	3,430	+3.5	80,127	+1.5	108,066	+2.9	166,737	+0.9	3,712	▲11.0
平成27年	937,712	+2.7	22,981	▲8.5	30,507	+4.4	17,747	+2.6	1,234	+2.3	3,745	+9.2	83,027	+3.6	112,625	+4.2	169,626	+1.7	3,250	▲12.4
平成28年	947,618	+1.1	23,522	+2.4	30,294	▲0.7	17,606	▲0.8	1,202	▲2.6	4,061	+8.4	83,472	+0.5	118,296	+5.0	168,067	▲0.9	3,583	+10.2
平成29年	946,438	▲0.1	23,681	+0.7	29,957	▲1.1	17,300	▲1.7	1,146	▲4.7	4,077	+0.4	83,087	▲0.5	120,000	+1.4	168,646	+0.3	3,748	+4.6
平成30年	952,170	+0.6	24,314	+2.7	30,554	+2.0	17,368	+0.4	1,166	+1.7	4,282	+5.0	83,916	+1.0	122,930	+2.4	171,571	+1.7	4,099	+9.4
令和元年	965,536	+1.4	23,212	▲4.5	32,164	+5.3	17,713	+2.0	1,170	+0.3	4,727	+10.4	87,469	+4.2	128,386	+4.4	176,917	+3.1	4,576	+11.6
令和2年1月	76,011	+0.3	1,402	▲5.9	2,515	▲0.7	1,335	+2.9	90	▲3.2	384	+2.4	6,824	▲0.7	10,424	+4.5	15,458	+4.8	396	+2.3
令和2年2月	75,469	+5.5	1,779	+6.5	2,625	+2.9	1,442	+14.1	119	+21.4	439	+17.7	7,370	+5.7	10,253	+10.1	12,902	+3.4	369	+10.8
令和2年3月	79,509	▲1.0	2,132	+16.3	2,798	▲3.5	1,825	+27.6	161	+43.8	535	+22.1	7,680	▲5.1	10,526	+3.3	10,744	▲30.6	435	▲2.5
令和2年4月	73,919	▲4.6	2,110	+12.4	2,680	▲6.3	1,921	+38.0	181	+70.8	473	+21.0	6,384	▲8.9	9,996	▲1.1	5,127	▲64.8	427	+21.0
令和2年5月	78,272	▲3.4	1,921	+7.6	2,742	▲1.1	1,909	+27.9	138	+42.3	400	+13.6	6,860	▲5.6	10,558	+2.3	6,547	▲58.9	495	+41.4
令和2年6月	77,246	▲0.3	1,880	+4.4	2,543	▲3.9	1,813	+16.3	109	+13.5	359	+7.5	6,519	▲0.4	10,257	+3.9	8,563	▲38.0	345	▲2.5
令和2年7月	79,290	▲0.7	1,877	+9.6	2,603	▲3.6	1,866	+10.0	114	+20.0	395	+13.5	6,790	▲4.0	11,306	+0.8	9,646	▲32.5	384	+1.3
令和2年8月	85,038	▲1.1	1,925	+9.6	2,527	▲4.9	1,846	+11.5	112	+19.1	368	▲2.9	7,686	▲6.9	11,590	+1.5	11,031	▲36.3	496	+11.2

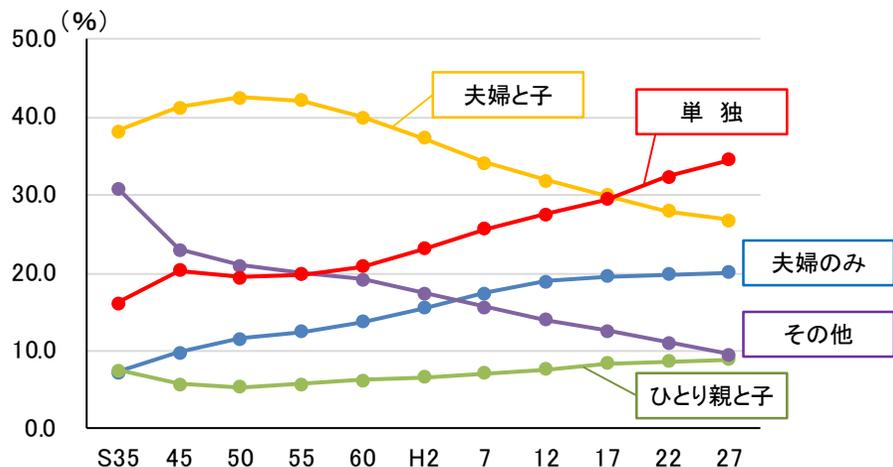
資料:総務省「家計調査」

(注1) 二人以上の世帯の数値である。(注2)平成25年から令和元年については年間の支出金額・対前年比、令和2年は月間の支出金額・対前年同月比である。(注3)パンは、食パン及び他のパン(菓子パン等)である。

# 米の消費における家庭内及び中食・外食の占める割合

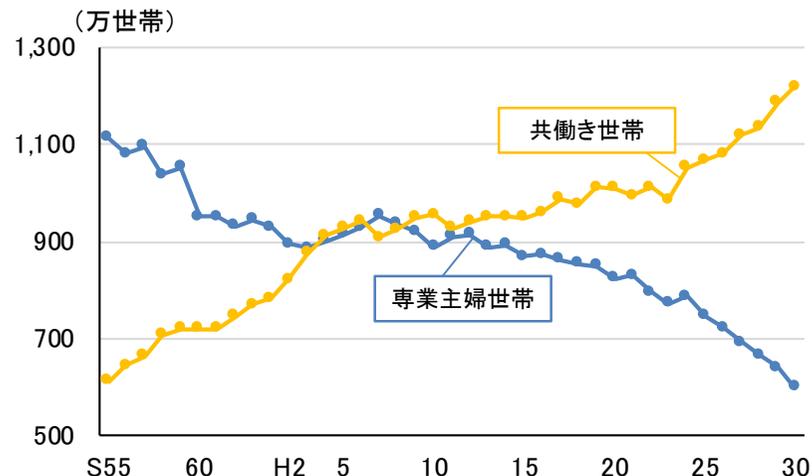
○ 世帯構成の変化(単身世帯の増加)、女性の社会進出(共働き世帯の増加)等の社会構造の変化により、食の簡便化志向が強まっており、米を家庭で炊飯する割合が年々低下する一方で、中食・外食の占める割合は年々増加傾向にある。

【家族類型別にみた一般世帯の構成割合の推移】



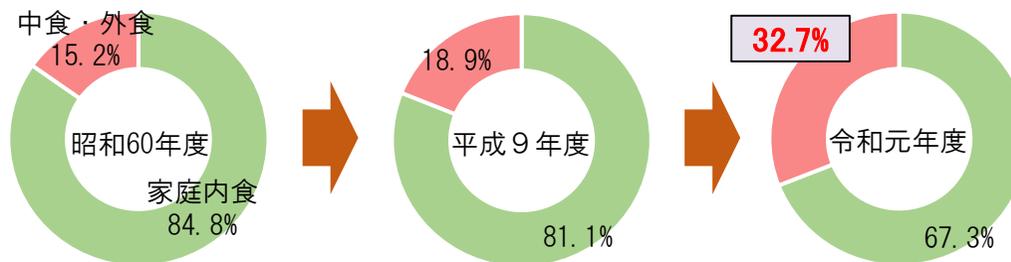
資料：国立社会保障・人口問題研究所「家族類型別世帯数および割合」

【専業主婦世帯数と共働き世帯数の推移】



資料：独立行政法人労働政策研究・研修機構「専業主婦世帯と共働き世帯」

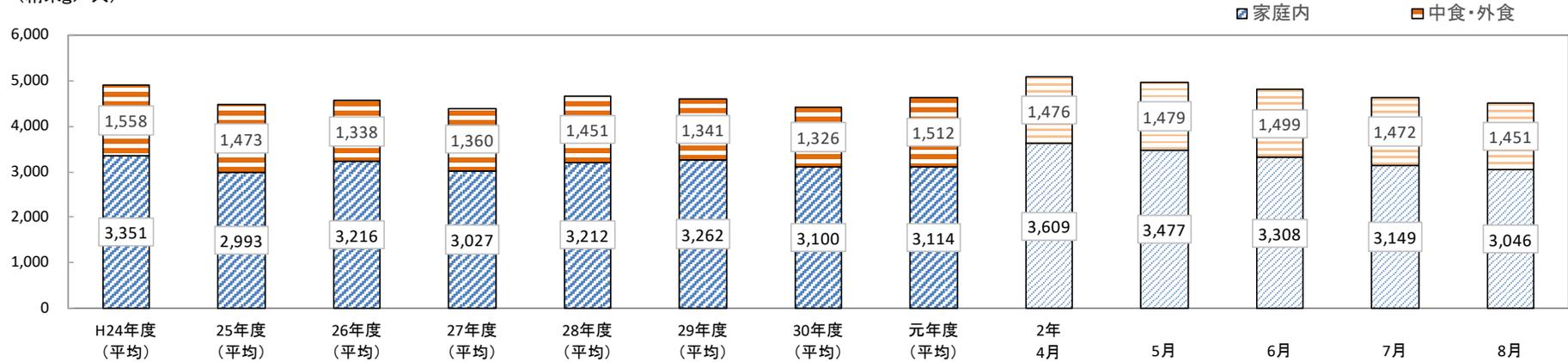
【米の消費における家庭内及び中食・外食の占める割合（全国）】



資料：農林水産省「米の1人1ヶ月当たり消費量」及び米穀機構「米の消費動向調査」

# 米の消費動向 ①(1人1ヶ月当たり精米消費量の推移)(米穀機構による調査)

(精米g/人)



	精米消費量(g)					内訳比率(%)					前年同月比(%)				
	合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食	
		家庭内	中食	外食	家庭内		中食	外食	家庭内	中食		外食			
平成24年度	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲4.4	▲3.1	▲6.1
25年度	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲9.0	▲10.7	▲5.5	▲6.0	▲4.7
26年度	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲9.2	▲10.4	▲7.5
27年度	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲3.7	▲5.9	1.6	4.6	▲2.2
28年度	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4,603	3,262	1,341	777	564	100.0	70.9	29.1	16.9	12.3	▲1.3	1.6	▲7.6	▲8.8	▲5.8
30年度	4,426	3,100	1,326	782	544	100.0	70.0	30.0	17.7	12.3	▲3.8	▲5.0	▲1.1	0.6	▲3.5
令和元年度	4,626	3,114	1,512	885	627	100.0	67.3	32.7	19.1	13.6	4.5	0.5	14.0	13.1	15.3
令和2年 4月	5,085	3,609	1,476	1,095	382	100.0	71.0	29.0	21.5	7.5	3.3	11.6	▲12.7	11.8	▲46.2
令和2年 5月	4,956	3,477	1,479	1,032	447	100.0	70.2	29.8	20.8	9.0	2.2	8.3	▲9.8	6.6	▲33.5
令和2年 6月	4,807	3,308	1,499	969	531	100.0	68.8	31.2	20.2	11.0	4.2	5.9	0.5	11.9	▲14.9
令和2年 7月	4,620	3,149	1,472	950	521	100.0	68.2	31.9	20.6	11.3	2.7	2.9	2.4	13.8	▲13.6
令和2年 8月	4,496	3,046	1,451	935	515	100.0	67.7	32.3	20.8	11.5	6.5	9.5	0.7	13.7	▲16.8

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成24～令和元年度は各年4月から翌年3月までの平均値である。

2 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

# 米の消費動向 ②(精米購入時の動向)

【購入・入手経路（複数回答）】

単位：%

	平成 25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	令和2年 4月	5月	6月	7月	8月
デパート	0.7	1.2	1.8	1.5	1.4	1.4	1.0	0.5	1.3	0.9	1.3	1.8
スーパーマーケット	47.4	48.7	48.1	49.7	49.4	52.7	50.1	52.5	51.0	48.8	54.6	50.2
ドラッグストア	3.8	4.1	3.7	3.7	4.3	4.8	5.9	5.2	5.5	6.6	4.7	5.9
ディスカウントストア	2.8	2.4	2.5	2.8	3.1	2.8	3.2	4.1	4.4	5.3	4.1	4.3
コンビニエンスストア	0.3	0.2	0.2	0.5	0.3	0.2	0.2	0.1	0.3	0.0	0.3	0.1
生協(店舗・共同購入含む)	7.1	8.2	7.8	8.1	6.9	6.5	5.9	6.3	6.8	5.9	6.6	7.9
農協(店舗・共同購入含む)	1.6	1.5	1.0	1.5	1.6	1.2	1.3	1.5	1.0	1.2	1.3	1.4
米穀専門店	3.8	3.5	3.7	2.7	2.8	2.7	2.4	2.4	2.7	2.3	2.0	2.0
産地直売所	1.8	2.0	1.5	1.8	2.0	2.2	1.0	0.9	1.0	1.4	0.9	1.0
生産者から直接購入	6.8	6.7	5.2	6.2	7.1	6.0	5.9	4.3	4.4	5.0	5.2	4.9
インターネットショップ	10.0	8.7	9.7	9.6	10.0	9.8	8.1	10.0	10.3	9.5	8.2	8.4
家族・知人などから無償で入手	20.8	19.5	20.3	17.2	16.2	14.8	17.8	13.3	13.5	14.0	12.3	15.1
その他	1.6	2.6	2.6	3.2	2.5	2.3	3.4	5.2	4.4	3.8	4.1	3.2

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

(注) 平成25～令和元年度は各年4月から翌年3月までの平均値である。

# 米の消費動向 ③(精米購入経路別の購入単価、家庭内の月末在庫数量)

【精米購入経路別の購入単価（複数回答）】

(円/kg)

	デパート	スーパーマーケット	ドラッグストア	ディスカウントストア	コンビニエンスストア	(生協・店舗・共同購入を含む)	(農協・店舗・共同購入を含む)	米穀専門店	産地直売所	生産者から直接購入	インターネットショップ	有効調査世帯数
令和元年度	618	399	355	323	※545	424	477	473	434	373	494	-
令和2年4月	※422	383	409	387	※506	445	385	456	※427	387	514	2,321
5月	521	413	360	341	※489	448	370	431	376	346	485	2,164
6月	※473	398	353	364	※1,500	475	420	447	401	353	486	2,049
7月	430	408	356	313	※312	419	435	552	※453	390	498	1,953
8月	501	396	380	386	※430	437	404	499	375	414	498	1,885

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

(注1) デパート、スーパーマーケット、生協は、実店舗の購入単価であり、インターネットを利用した購入は含まない。

(注2) 購入単価は消費税を除く本体価格である。

(注3) 表中の※付きの単価は、当該経路での購入割合が有効調査世帯数の1%未満に満たないため参考値とする。

【家庭内の月末在庫数量】

(kg/世帯、%)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
平成26年度	月末在庫数量	6.8	6.8	6.5	6.3	6.5	6.8	7.3	7.5	7.8	7.1	6.8	6.6	6.9	3.0
	平均世帯人員	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	-
27年度	月末在庫数量	6.0	6.2	6.2	6.3	6.4	6.6	6.9	7.1	7.3	7.1	6.8	6.6	6.6	▲4.3
	平均世帯人員	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40	2.41	2.41	2.40	2.41	2.41	2.41	2.40	-
28年度	月末在庫数量	6.5	6.4	6.2	6.2	6.2	6.2	6.7	7.0	7.7	7.5	6.7	6.6	6.7	1.5
	平均世帯人員	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	-
29年度	月末在庫数量	6.1	6.2	5.9	6.0	6.0	6.1	6.7	6.8	7.0	6.9	6.4	6.4	6.4	▲4.5
	平均世帯人員	2.33	2.32	2.33	2.33	2.32	2.33	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	-
30年度	月末在庫数量	6.4	6.3	6.0	5.8	6.1	6.5	6.6	6.9	7.2	6.6	6.4	6.4	6.4	0.0
	平均世帯人員	2.32	2.32	2.32	2.33	2.33	2.33	2.32	2.33	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	-
令和元年度	月末在庫数量	6.0	6.2	5.9	5.7	6.0	6.2	6.2	6.5	6.6	6.3	6.3	6.5	6.2	▲3.1
	平均世帯人員	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.33	-
2年度	月末在庫数量	7.1	6.5	6.6	6.2	6.0								6.5	4.8
	平均世帯人員	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33								2.33	-

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

(注1) 地域ごとの世帯人員構成比が平成26～28年度はH22国勢調査、平成29～令和元年度はH27国勢調査「世帯人員構成比」に沿うようウェイトバック集計を実施した上で集計した。

(注2) 平均世帯人員は、各月の有効調査世帯の平均人員数である。

# 主食用米の販売動向(米穀卸売業界調査)

## [調査の概要]

全国米穀販売事業共済協同組合が、米穀の販売・需要動向を多角的に把握することを目的として、同組合会員企業を対象に実施。四半期ごとに継続的に調査。

- アンケート回答数 45組合員
- 調査期間 令和2年6月22日(月)～令和2年7月10日(金)

## 1. 現在(令和2年6月)の米販売量(前年同月との比較)

集計結果	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
	100.0%	8.9%	15.6%	13.3%	26.7%	<b>35.6%</b>

### <仕向先別>

(小売店向け)	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
大手スーパー	100.0%	18.5%	18.5%	22.2%	<b>25.9%</b>	14.8%
中小スーパー	100.0%	16.7%	19.0%	<b>28.6%</b>	21.4%	14.3%
米穀専門店	100.0%	4.9%	0.0%	24.4%	34.1%	<b>36.6%</b>
その他	100.0%	6.3%	21.9%	25.0%	9.4%	<b>37.5%</b>

(外食産業向け)	合計	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
外食向け	100.0%	4.9%	7.3%	0.0%	24.4%	<b>63.4%</b>
中食向け	100.0%	0.0%	4.7%	27.9%	25.6%	<b>41.9%</b>
給食向け	100.0%	0.0%	2.4%	<b>40.5%</b>	33.3%	23.8%

- \*1. 赤字は、最頻値及びDI値。  
 \*2. DI(diffusion index)の算出方法:内閣府で発表している「景気ウォッチャー調査」方式を採用した。具体的には、5つの回答選択肢に均等に0～1の評価点を与え、各回答の構成比に対応するそれぞれの評価点を乗じ、それらの合計を指数(%ポイント)としてDI値を算出。それが50の場合は横ばい(現状維持)を示す。0に近づくほど販売が低迷傾向にあることを示し、逆に100に近づくほど販売が好調傾向であることを示す。

## 2. 米販売の動き:過去3ヶ月前との比較 / 3ヶ月後の見通し

### (1) 過去3ヶ月前(令和2年3月)と比較した令和2年6月の動き

合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI値
100.0%	8.9%	8.9%	0%	35.6%	<b>46.7%</b>	<b>24.4</b>

### (参考) 前回調査 令和元年10月と比較した令和2年1月の動き

100.0%	1.7%	13.3%	16.7%	31.7%	<b>36.7%</b>	<b>27.9</b>
--------	------	-------	-------	-------	--------------	-------------

### (2) 令和2年6月から3ヶ月後(令和2年9月頃)の見通し

合計	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI値
100.0%	0.0%	<b>28.9%</b>	<b>28.9%</b>	26.7%	15.6%	<b>42.8</b>

### (参考) 前回調査 令和2年1月から3ヶ月後(令和2年4月頃)の見通し

100.0%	0.0%	35.0%	<b>43.3%</b>	20.0%	1.7%	<b>52.9</b>
--------	------	-------	--------------	-------	------	-------------

(算出例)	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
評価点 A	1	0.75	0.5	0.25	0
結果(構成比) B	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値 C=A×B	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4→米販売の動きはほんの少し低迷傾向				